

金融業界今後の戦略

RA2210 りょう

1. 概要

信用金庫の現在の状況や弱点を把握し、
ビジネスモデルを述べる。

2. 目的

社会インフラの中心にいる金融機関。

マイナス金利政策など、時代とともに変わりつつある金融業界の
今後の課題と展望を模索する。

3. 信用金庫とは[3]

信用金庫は、地域の人々が利用者・会員となって、互いに地域の繁栄を図る相互扶助を目的とした協同組織の金融機関。主な取引先は中小企業や個人。利益第一主義ではなく、会員すなわち地域社会の利益を優先する。さらに、営業地域は一定の地域に限定されており、預金が、その地域の発展に活かされている点も銀行と大きく異なる。

4. 信用金庫と銀行の違い [3]

区分	根拠法	設立目的	組織	会員(組合員)資格	業務範囲(預金・貸出金)
信用金庫	信用金庫法	国民大衆のために金融の円滑を図り、その貯蓄の増強に資する	会員の出資による共同組織の非営利法人	(地区内において) 住所または居所を有する者 事業所を有する者 勤労に従事する者 事業所を有する者の役員 ＜事業者の場合＞ 従業員300人以下または資本金9億円以下の事業者	預金は制限なし 融資は原則として会員を対象とするが、制限つきで会員外貸出もできる (卒業生金融あり)
銀行	銀行法	国民の健全な発展を資する	株式会社組織の営利法人	なし	制限なし

5. 信用金庫の弱み[1]

- ・外部環境の変化により顕在化した弱み

相対的に弱い収益力・余資運用力、中小企業の減少、取引先の高齢化、グローバル化・IT化への対応力など

- ・信用金庫制度や内部環境に起因する弱み

限定的な資本調達手段、課題解決を担う人材・専用人材(資産運用・IT・システム等の分野)の不足など

- ・強みを活かしてきれていない弱み

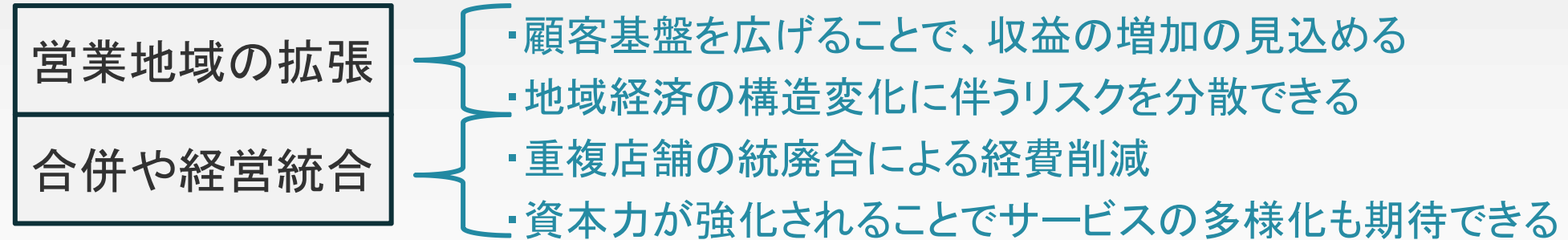
世間における信用金庫の理念・役割の認知度不足、ブランド力不足
課題解決支援における金利・手数料収入への反映力など

6. 信用金庫の現状[2]

日本銀行の金融緩和政策の長期化(2016年2月にはマイナス金利政策を導入)、金融機関間の金利競争を受けて、地域金融機関の貸出金利回りの低下に歯止めがかからず、利益水準が低下している。また、少子高齢化による後継者不足や大都市圏への人口集中(地方の人口減少)などの要因が重なって、厳しい収益環境におかれている。

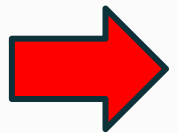
7. ビジネスモデル[2]

広域化戦略 → 地方銀行寄り



深掘り戦略(例:融資業務) → 信用金庫寄り

- ・迅速な与信審査、積極的な小口融資・地域貢献、取引先からの感謝・笑顔の回数の向上
- ・限られた営業地域に密着することで存在感を高める



地域の繁栄を図る相互扶助を目的としている信用金庫に一番合っている

8. 今後の方針

預金を取り扱う金融機関を中心に情報を収集。

その中で、様々な金融機関の現状や差異を捉え、今後の課題と展望を追及していく。

9. 参考文献

[1] 谷地宣亮, 信用金庫の存在意義に関する再考察, 日本福祉大学経済論集, 第60号, 2020-03.

[2] 古江晋也, マイナス金利政策下における地域金融機関の経営戦略: 生き残りをかけた広域化戦略と深掘り戦略, 農林中金総合研究所, 2018-05.

[3] 一般社団法人全国信用金庫協会, 信用金庫と銀行・信用組合との違い

<https://www.shinkin.org/shinkin/difference/> (閲覧日 07-20)